



子どもたちの明るい未来のために

日立市立小・中学校PTA連合会



広報誌 第39号 情報委員会

～ も く じ ～

- (1) 表紙 がんばれ！ひたちPTA
- (2) 会長挨拶
- (3) 生涯学習委員会報告
- (4) 未来委員会報告
- (5) 情報委員会報告
- (6) 母親委員会報告
- (7) 特集 震災後の水木小学校
- (8～9) 市P連広報活動についてアンケート調査まとめ
- (10) 日P全国大会京都大会参加報告  
日P関東ブロック大会静岡大会参加報告
- (11) 茨城県PTA振興大会表彰式典 受賞者紹介
- (12) 寄稿「PTAとの連携について」  
青少年育成推進会議発表報告  
日立市教育振興大会発表報告



7月7日 水木小学校と常陸太田市立金砂郷小学校の交流会

平成24年度 日立市立小・中学校PTA連合会スローガン

新しい市P連へ。そしてひとつに。

### 新たなる一歩

日立市立小・中学校PTA連合会

会長 薄井 啓司



日頃より、市P連の活動に対しまして多大なるご理解とご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

未曾有の大震災から、もう二年になりますが、とても慌てふためいた日々でしたから、震災の被害に遭われた方々を思うと、察するに余りあります。そして爪痕は深く復興はまだまだ半ばであります。しかし世の中は私たちが感じている以上に大きな転換点を迎えているように思います。

今、私たち大人が子どもたちにしてあげられることの一つに、大人の姿をしっかりと見せることがあると思います。子どもは、将来必ず大人になります。その時、どっという大人になればいいのか、一番の手本になるのは、自分の親の姿だと言われています。子どもたちは、大人の姿を見ることによって、将来こんな大人になりたい、こんな職業に就きたいと、自分の夢や目標を描くことができるの

だと思えます。

大人は、自分が見られていることを忘れてしまったり、恥ずかしがったりしてしまいがちですが、大人が生き生きと大きく見えれば、子どもたちの夢や目標も、大きくたくましくなります。PTA活動を通して、大人が互いに連携し、良いコミュニケーションを取り合いながら、夢や目標を持つ大人の姿をぜひ子どもたちに見せてあげましょう。子どもたちの「みらい」のために。市P連も、「新たなる一歩」として組織を見直し、コンパクトで効率の良い市P連を目指しています。各校が交流し、市内の児童・生徒の健全育成がはかられることを目的としております。



講師紹介をする薄井会長



役員・常任委員・幹事局



市P連メンバー全員集合

## 市 P 連 事 業 報 告

- 5月12日 平成24年度定期総会
- 5月15日 第1回役員会
- 6月 5日 第1回常任委員会
- 6月23日 第1回単P会長会議
- 6月26日 第2回役員会
- 9月 4日 第3回役員会
- 9月11日 第2回常任委員会
- 10月23日 第2回単P会長会議
- 10月30日 第4回役員会
- 11月 6日 第3回常任委員会
- 11月17日 日立市教育講演会
- 11月24日 臨時役員会
- 1月22日 第5回役員会
- <今後の予定>
- 5月11日 平成25年度定期総会

# 生涯学習委員会報告

委員長 勝山 起一



今年度の生涯学習委員会は十四名の委員会メンバーで、「新しい市P連入。そしてひとつに。」のテーマの下、市P連の組織・事業・運営の見直しを行いました。

委員会では、「市P連は単Pの応援団としてあり続ける」「市P連には市P連にしかできないことを」という活動の原点を踏まえつつ、時代の変化に見合った組織・運営への転換を真剣に考えました。

また十月に開催した第二回単P会長会議ではグループディスカッションを行い、生涯学習委員会案や広報関係のアンケート、単P女性役員へのアンケートをもとに四十校の代表者から積極的な意見・提案をいただきました。

単Pとしての意見、単P会長や単P女性役員としての個人的な意見、またともにPTA活動を担う先生方の意見、そして四十校をまとめる市P連ス

タッフの意見と、さまざまな意見・提案があり、全てを反映させることは難しいです。

今回は、直面している課題のみを見直し、来年度以降も引き続き検討していくこととしました。持続可能な組織・運営への転換をはかるために、今後みなさんのご協力をお願いしたいと思います。

今年度の活動を通じて情報を共有することの大切さを痛感するとともに、委員会での話し合いや情報交換を行う中で、集った仲間の交流こそが、今、市P連に必要なことではないかと感じました。

生涯学習委員会メンバーのみなさまには、たいへんお世話になりました。一年間ご協力を賜りありがとうございました。



趣旨説明をする勝山副会長



明日の市P連について 熱い討議が行われました

## 活動状況

- 5月30日 第1回委員会
- 6月23日 第2回委員会
- 9月19日 第3回委員会
- 10月11日 第4回委員会
- 10月23日 第2回単P会長会議
- 3月 第5回委員会



何をどう変えていくべきか？

## 未来委員会報告

委員長 鈴木 祐一



今年度の未来委員会は十八名のメンバーで、「ともに語り合って、分かち合おう！親の思い、子の思い」のテーマの下、活動してまいりました。

主管事業として、十一月十七日(土)多賀市民会館で開催した日立市教育講演会の運営を行いました。今年度の講師は「ドラゴン桜」の指南役や「親力で決まる！」「プロ親になる！」等の著書で有名な教育評論家の親野智可等氏をお招きして「親力で決まる子ども」の将来子ども人間力と学力を伸ばすには？」の演題で、ご講演をいただきました。

「親が子どもに与える影響力は絶大なので、叱るときはまず冷静になり、感情的になって人格否定をしないこと。良いところを褒めて他者信頼感を深め、自己肯定感を伸ばすこと。これらを継続していくことで子どもをはじめ、家族、友達など周りみんなが、相乗効果でよい人間関係を作ることができ

き、自分自身も幸せになれる。子どもの「やる気スイッチ」が入る時期は個人差があるので、周りの子と比較せず焦らずにゆっくりと子どもに合わせていくこと」など親野智可等先生の飾らない気さくなお人柄のお話は、親としてあたり前のことをあたり前にできていない自分自身の親力不足に、じくじたる思いで、ただただ反省するばかりでした。親子関係だけでは無く、大人同士の社会でも同様かと思われれます。

おかげ様で当日、会場は満員御礼で、講演会を大成功で終えることができました。日立市教育委員会、日立市教育研究会、日立市立幼稚園教育研究会のみなさま方をはじめ、講演会に携わった多くのみなさま方のご協力に心より感謝申し上げます。

未来委員会のみなさん、役員・幹事局のみなさんにたくさんのご指導とご協力をいただきながら楽しく活動することができました。一年間、たいへんお世話になりました。ありがとうございました。



会場は満席！



「親力」について考えさせられた親野先生のお話



## 活動状況



活発な意見交換をする未来委員会

- 5月29日 第1回委員会
- 6月13日 第2回委員会
- 6月23日 第3回委員会
- 9月25日 第4回委員会・第1回教育講演会運営委員会
- 11月 6日 第5回委員会・第2回教育講演会運営委員会
- 11月17日 教育講演会
- 12月 3日 第6回委員会・第3回教育講演会運営委員会
- 2月13日 第7回委員会

情報委員会報告

委員長 小又 和洋



平成二十四年度の情報委員会の活動テーマは「英知を結集しよう！情報提供の「効率化」と「質」の向上」を掲げ私を含めた十三名のメンバーで活動を行ってきました。

はじめに、活動テーマである情報提供の「効率化」については、広報誌「みらい」の作成について着手しました。広報誌の作成は、印刷を除くレイアウトから写真の加工に至るすべてがパソコンを使用するの自作となっています。そこで、パソコンの基本操作ができれば、専用ソフトを使用することなく誰でも容易に広報誌の作成ができるように、レイアウト等のテンプレートを作成しました。

次に「質」の向上については、茨P連主催の「広報紙作り方研修会」で使用している手引きを情報委員へ配布するなどして情報提供の「知識」を学びながら各自の「質」の向上に努めました。

また、ホームページの運用については

多くの会員の皆さまにご協力をいただいた結果、ホームページを開設して以来、最多のアップ数となりました。

その他、この度の広報誌「みらい」三十九号については、情報委員会で話し合った結果、二つのことを重点において作成を行いました。

一つ目は、会員の皆さまより、震災後の水木小学校の様子を知りたいとの要望が寄せられ「特集 震災後の水木小学校」と題して現在の水木小学校の様子を掲載させていただきました。

二つ目は、昨年の十月に実施しました「市P連広報活動についてアンケート」の集計結果を掲載させていただくことにしました。紙面をお借りしまして、アンケートにご協力いただいた皆さまへ感謝を申し上げます。

なお、このアンケートの結果については、情報委員会で摸索の上、次年度の活動に向けて、ぜひ参考にさせていただきます。

最後に、情報委員長を二年間務めさせていただいた中で、「情報を共有することの大切さ」と「人に情報を伝えることの難しさ」を改めて痛感しました。情報委員会のメンバーはじめ、多くの皆さまにご支援・ご協力をいただき心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



和やかな雰囲気の中で活動



情報委員会メンバー



シャッターチャンスを待つ！



活動状況

- 5月22日 第1回委員会
- 6月23日 第2回委員会
- 8月28日 第3回委員会
- 9月24日 第4回委員会
- 11月24日 第5回委員会
- 2月 5日 第6回委員会
- 3月 1日 広報誌みらい39号 発行



日立市P連ホームページはお役立ち情報が満載！ぜひご覧ください！

“日立市P連”で検索ボタンをクリック！

URLはこちら ⇒ [http://www.net1.jway.ne.jp/pta\\_info/](http://www.net1.jway.ne.jp/pta_info/)

母親委員会報告

委員長 田所 英子



平成二十四年度、母親委員会では「未来へつなぐおもい・つむぐいのち」をテーマとし活動してきました。

子どもたちが自分を取り巻く様々な出来事に向き合える豊かな創造力、親子の関わりを通して自己肯定感を育む手立てとして「お弁当の日」を提案させていただきます。

「お弁当の日」を実践されている福岡市小学校教諭の稲益義宏先生の講演会DVDや資料から多くを学ぶことができました。「生きることは食べること。食べることは生きること。生の反対は死ではなく、生まれにくいこと。意味深くお弁当を作る理由を語ったDVDに多少びっくりしましたが、学校へ持ち帰り保護者の方にも見てほしいと思いました」などの感想を多くいただきました。また「お弁当の日」を実践された学校の母親委員による実施に至るまでの進め方や気付いたこと、実施計画の発表などを行うことで、より有

意義な研修会になったと思います。

その他にも、西野ひとみ先生のアロマ講座、市民教授の澁谷康子先生による食育講座、おたしろクリニック副院長の太田代紀子先生から「女性のからだと健康」をテーマにお話いただくなど、幅広い視点から今年度のテーマについて考えることができました。

今年度も母親委員会の活動にご理解とご協力をいただき心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



「お弁当の日」の活動計画を発表



旬の野菜・かぼちゃを使って



渋谷先生を囲んで



太田代先生の話聞き入る母親委員

活動状況

- 5月22日 第1回委員会
- 6月23日 第2回委員会
- 7月19日 委員会だより第21号 発行
- 10月 3日 第3回委員会
- 12月 6日 第4回委員会
- 1月19日 委員会だより第22号 発行
- 2月13日 第5回委員会
- 2月21日 委員会だより第23号 発行



初めての顔合わせで緊張…

# 特集 震災後の水木小学校

水木小学校PTA会長 高橋 晃太郎

平成二十三年三月十一日に起きた東日本大震災の影響で倒壊の危険があり、直後から水木小学校本校舎への立ち入りは禁止されたそうです。当時私は自分の子が就学しておらず、学校とかわりを持たなかったので伝聞になりますが、地震発生直後、教室内に児童が待機している段階でPTA役員の方が校舎に駆けつけ、非常階段も壊れて使用できない状況下において避難誘導するなど活躍されたそうです。またその後、先生方と共に学校内に取り残された児童の私物を回収・分類して個人に返却するという大変な作業をしたのも、当時のPTA会長をはじめとする役員の方々だったそうです。あの三月の混乱の中で、自分のことより先に学校のために動いた大人たちが確かにいたことを記しておきたいと思います。私は自分の家族と仕事のことです。私には一杯でしたので彼らを心から尊敬します。

その年の七月には私も校舎内に足を踏み入れましたが、教室の黒板に記されたままの三月十一日の日付や、二時四十六分で止まった時計が胸にせまりました。解体が決まったままなかなか工事が進展しなかった本校舎ですが、今年度四月にとうとう解体工事が行われました。そこで過ごした児童にとっては目の前にありながら二度と立ち入ることができなかった思い出の場所であり、当時の一年生にとっては手の届かなかったシンボルが水木小の本校舎でした。平成二十四年三月には(社)日本PTA全国協議会からの義援金を使わせていただき、全クラスが本校舎前にて記念撮影を行い全児童に記念写真を配布することができました。子どもたちの思い出を呼び起こす貴重な記録になったはずです。改めて皆さまの善意に感謝申し上げます。

例えば学校というものはつくづくたくさんの人に支えられています。水木小は震災当初、グラウンドも破壊されていたため仮設校舎も設置できず大沼小と泉丘中の空き教室をお借りして、水木小の新校舎とあわせて三分散の形でリスタートしたのでした。現在は泉丘中の敷地をお借りして仮設校舎を設置し、二分

散となり児童は通学しております。水木小は学区も広い上、通学先も二カ所になりますので、母の会と先生、地域の皆さまには子どもたちの安全・安心確保のため並々ならぬご尽力をいただいております。まして本当に頭がさがります。

様々な方の善意に対して感謝の念は忘れてはいけません。子どもたちはどうか委縮することなくのびのびと過ごして欲しいと願います。泉丘中の校庭を借りて行なった運動会やPTA主催の常陸太田市立金砂郷小学校との交流会(本誌の表紙の写真)では、子どもたちの元気な姿を見ることができて感動しました。

小学校の校舎の形はどうあれ、子どもたちの未来に向かうエネルギーは、大人にはなくなったもので眩しいものです。危うさははらんでいるので時に不安を覚えることもあるかもしれません。大人は子どもに対して何かを施すと反応を期待しがちです。でも学校は子どもの世界であるわけで、子どもに大人の意趣を押しつけることがないような距離感を持って学校とお付き合いができれば良いな、と個人的に思う今日この頃であります。



子どもたちを見守ってくれた水木小学校の本校舎 ありがとう そして お疲れさま



本校舎がなくなった水木小



重機を使って解体

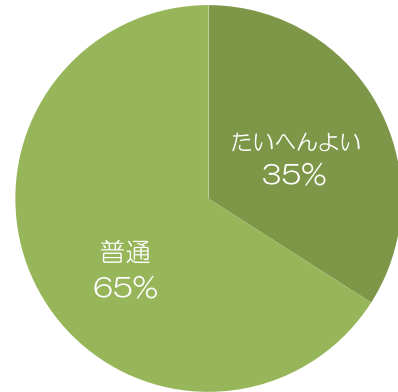


解体前の本校舎

Q4. 広報誌「みらい」の掲載記事やレイアウトはいかがですか？

(単位：人)

たいへんよい	普通	よくない
16	31	0

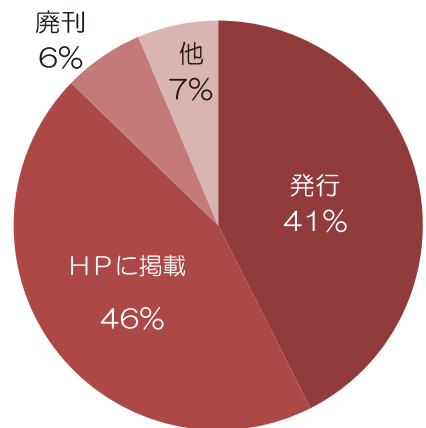


<記事やレイアウトへの意見>

- 写真が多く状況がよくわかる。
- 文章が多い。写真をたくさん入れてもらいたい。
- 単Pの特徴的な活動や研修・講演会等の話題、助成金等での活動紹介を増やす。
- ひとつの記事が長文で、たくさん続くので、ひとつひとつの記事をコンパクトにまとめた方がよい。

Q5. 今後の広報誌「みらい」について

発行した方がよい	ホームページに掲載	廃刊	その他(無回答を含む)
20	21	3	3



<その他の意見>

- 紙ベースでの発行も必要だが、PDF主体でよい。

◆ホームページや広報誌「みらい」について、自由にどうぞ…

- ホームページは見る余裕がない。
- 各委員会の報告がわかりやすく書かれていて、レイアウトもよく、読みやすい。自分の単Pの記事が掲載してあるとよく読む。
- 普段の市P連の様子が変わるためにも、市報などへのPR掲載などをして、一般の方への啓発等が大切。
- 各単Pの震災復興の取り組みが素晴らしい。活動内容がわかりやすかった。
- 広報誌が配布される人は限られているため、紙面ではなくホームページ掲載でよい。
- 広報誌は読みやすいが、予算との兼ね合いで検討。
- 紙面にホームページアドレスを掲載し、ホームページの存在をアピールし、数年かけてホームページ主流に切り替えていく。
- 白黒印刷にして全家庭に配布してはどうか。
- 短い文章で多くの写真を入れ、多くの学校の問題を掲載してはどうか。
- パソコンのない家庭もあると思うので、紙ベースで発行した方がよい。
- 作成はご苦労が多いと思うが、頑張ってください。
- 役員の方の熱心な活動が伝わってくる。レイアウトも見やすく工夫されていると思う。



**現在、情報委員会では以上のアンケート結果を基に、来年度の活動に向けて摸索中です!**



●市P連広報活動についてアンケート調査まとめ

2012.10.25現在

◆実施日 10月3日(水)～25日(木)

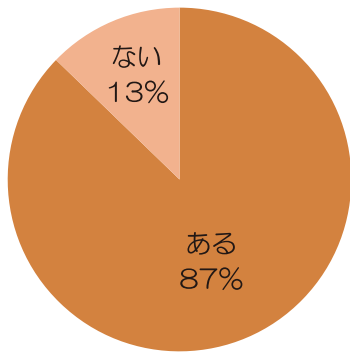
◆対象 単P役員  
PTA事務担当職員

回答者 合計	47人	単P役員 先生	31人 16人
--------	-----	------------	------------

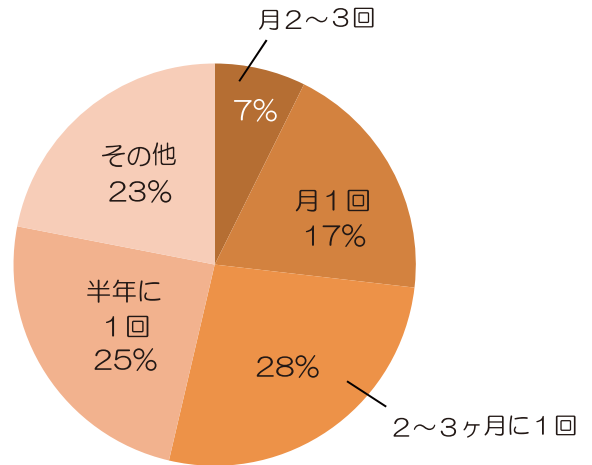
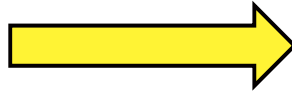
Q1. あなたは市P連ホームページを見たことがありますか？

(単位：人)

ある	ない
41	6



閲覧頻度は？



Q2. あなたの所属する単Pでは、広報誌「みらい」は誰に配布していますか？（複数回答可）

(単位：人)

教職員とPTA役員	44
PTA委員	14
各学級	2
その他 (わからない、配布していない等)	5

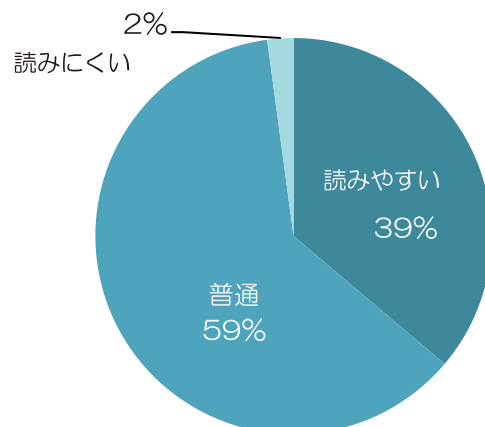
大半の単Pが、  
教職員・PTA役員・PTA委員に  
配布している。

ちなみに例年、市P連からの配布枚数は  
各校学級数+10部

Q3. 広報誌「みらい」は読みやすいですか？

(単位：人)

読みやすい	普通	読みにくい
17	29	1



<読みにくい点>

- ・ホームページでの閲覧は見づらい。

### 第六十回日本PTA全国研究大会 京都大会 参加報告

とき 平成二十四年八月二十四日(金) ～二十五日(土)

日立市立小・中学校PTA連合会 会長 薄井 啓司

今年度の京都大会は、日立市P連からは四名が、茨P連からは五十六名が参加しました。京都大会全体では八千二百人の参加との発表でした。

「いのち ころころ ゆめく伝えよう つなげよう 育もう」のスローガン下、初日は京都府内六会場において分科会が開催され、京都市勧業館みやこめっせでのスポーツと教育をテーマにした特別第一分科会「のり越える」に参加しました。

元バレーボール日本代表の大林素子さんの基調講演は、身長を活かせるバレーボールに出会うまでは、背の高さがコンプレックスだったということや、「価値観を押し付けない」「コンプレックスを味方にする」と、それが武器になる」など、聞いていて自分でも何かが変わるかもしれないと思えるお話でした。

翌日の全体会は、国立京都国際会館で開催されました。開会式で、平野博文・文科科学大臣は全国で相次いで発覚しているいじめ問題に触れ「どの学校でもあり得る。全力を挙げて対策

に取り組む」とあいさつ。

その後、「スマイル・レボリューション」と題して歌手の加藤登紀子さんによる記念講演がありました。「今は格差社会で、きょうくつな時代である。子どもたちも敏感にそれを感じている。そんな子どもたちに必要なのは北風でなく太陽である」バラの花束を抱く加藤さんは、生き生きと輝いて見えました。

貴重な討論会や講演会に参加できたことに感謝申し上げます。



京都市勧業館みやこめっせの前で

### 第四十四回日本PTA関東ブロック研究大会 静岡大会 参加報告

とき 平成二十四年十月十九日(金) ～二十日(土)

河原子小学校PTA役員 掛札 晋一

関プロ静岡大会は、スローガン「新しい学び ころころなごう ふじのくに」のとおり、静岡県に関東各地からのPTA関係者約二千人が集う場となりました。茨P連からは百十一名が参加し、市P連からは五名がその輪の中に加わり研鑽を深めました。

私は、十の分科会の中から特別分科会「おやじの会サミット」に参加し、静岡県磐田市長の渡部修氏の講義を聞きました。中学校のPTA会長の時、生徒が荒れていてトイレドアを壊してまわっていたが、壊すたびにお父さんたちで修繕に行っていると徐々にトイレドアを壊す生徒が減っていき、最後にはなくなったとの話でした。問題が起きた時には、学校だけに頼らず父親・母親が協力して問題を解決していくことが大事だと感じました。また夫婦仲が悪いと子どもの居場所がなくなるこの話もあり、子どもは親を見て育つと再確認しました。

次に「おやじの会活動を通じた子育てへのかわり方」の発表があり、中でも中学生・高校生になった子どもた

ちが、大人たちと一緒に協力して活動している姿がとても素晴らしいと思いました。その中で、子どもたちが成長していく様子を見られたらとても嬉しいことだと思いました。

今回の研修では、分科会、全体会さらにはたくさんの方とのPTA関係の方と話ができ、小さい枠ではなく大きい枠で考えていけば少しずつでも小学校や中学校が良くなっていくと思えました。また参加することによって、自分も成長し、これからのPTA活動の糧になると思いました。



静岡県コンベンションアーツセンター グランシップの前で

## 平成24年度 茨城県PTA振興大会表彰式典

とき 平成24年12月1日(土)

場所 フェリヴェールサンシャイン(水戸市)

### 受賞おめでとうございます



永年功勞表彰受賞者



三行詩コンクール表彰受賞者

#### 茨城県PTA連絡協議会 会長表彰(個人)

茂野 勝雄さん(日立市P連 前会長)

道口みゆきさん

(県北P連 前女性ネットワーク委員会委員長)

#### 茨城県PTA連絡協議会 会長表彰(永年功勞)

大内真由美さん(十王中学校PTA 前副会長)

加藤貴代美さん(十王中学校PTA 前副会長)

佐藤 博史さん(駒王中学校父母と先生の会 前会長)

渡部 秀志さん(助川中学校父母と先生の会 現副会長)

#### 楽しい子育て全国キャンペーン「三行詩コンクール」 茨城県PTA連絡協議会 会長賞 優秀賞 小学生の部

鈴木 優里さん(大久保小学校 6年)

#### 第34回全国小・中学校PTA広報紙コンクール 社団法人日本PTA全国協議会 奨励賞 第21回茨城県PTA広報紙コンクール 入選

大久保小学校父母と先生の会 広報紙「おおくぼ」

#### 第21回 茨城県PTA広報紙コンクール 審査結果講評

表紙はレイアウトや見出しにインパクトがあり、読んでみたいと思う力作である。PTA顧問・教頭・校長の順での各号あいさつ文も新鮮。PTAの具体的な活動の企画内容を各号に欲しい。



広報紙コンクール受賞校代表



広報紙「おおくぼ」

### PTAとの連携について

日立市教頭会 会長 沼田 仁



勤務校においては、「学校は一つの大家族」を合い言葉に子どもたちと教師、保護者が協力している。子どもたちの教育は、教師だけが行うものではなく、保護者や地域との協力で育てていくものである。その中で、各学校の教頭は、PTA副会長または事務局を担っている。改めてPTA（ペアレント・ティーチャー・アソシエーション）とは、教師と保護者が協力・連携し、「①児童生徒の健全育成、②教育効果の向上、③教育環境を整備、④あわせて会員相互が学習し合う」ことを目的としての団体である。児童・生徒を中心にした保護者と教師の相互理解に基づく実質的な協力関係が望まれる。ところが、現状としては①会員の意識の低さ、②一部役員の加重負担や一般会員との意識の格差、③親睦やレクリエーションへの活動内容の偏り、④学校の財政後援会ないし奉仕団体化、⑤教師会員の無関心、⑥事務処理における教師会員

への依存などが指摘されている。しかし、PTAの中心的役割は、子どもの教育をめぐって教師と保護者が協働することであり、保護者の教育要求集約の場としての存在意義を改めて確認し、学校経営上に位置づけていくことが求められている。「すべては子どもたちの笑顔のために」PTAの活動が、展開されることを願っています。

### 青少年育成推進会議発表報告

成沢小おやじの会 会長 今野 幸樹

十月十三日（土）、油縄子交流センターで開催の「日立市青少年育成推進会議 地域活動研究会」にて、成沢小PTA特別委員会おやじの会の活動事例について発表をさせていただきました。

発表時間は十二分以内だったため、触りだけの発表となってしまいました。発表後、会場の方から好評の意見をたくさんいただきました。特別なことをやっているわけではなく、やる気になれば他の地域でもできる活動です。今回の発表が種となり芽となり、「子どもたちのためになればいいなあ」と思っています。最後に、貴重な発表の機会を与えていただきました心より感謝を申し上げます。

### 日立市教育振興大会発表報告

榊形小学校PTA副会長 鈴木 亜紀  
福島 泰子



成沢小おやじの会  
山中さん(左)と今野さん(右)

八月十七日（金）に行われた日立市教育振興大会での発表感想などを含めて、本校PTA活動の一部をご紹介します。

榊形小学校の特色は、海・山・川に囲まれた自然豊かな環境があげられます。その自然環境を生かしたホタルの飼育、学校ビオトープ、米作り、サケの仔魚放流等の総合的な学習を行っています。

また、児童数九八〇名を数える県内有数のマンモス校でもあります。登下校時における幹線道路の交差点での混雑対策を考えるため、交通安全母の会や地域の方々との意見交換会を実施しています。その中で、通学路の危険個所の洗い出しと改善案の提案を行っています。運動会時の保護者の観覧席確保

や当日の臨時駐車場の使用ルールを決め、PTA役員、各委員と先生方が協力して運営を行っています。

本年度はPTA活動目標を「くしっ子と共に育てよう家庭、学校、地域の和」と定め活動しています。子どもたちを中心に置いて、家庭、学校、そして地域がより一層成長していくという意図が含まれています。大規模校である榊形小にあって、その良さを生かし、学校を大きな家族と位置付け、一人ひとりの個性を大事にしながら一つの家族のように、さまざまな課題にも取り組んでいこうと思えます。

この発表の機会を得て、榊形小の良さを再確認できました。今回の発表に、ご協力をいただいた関係者の皆さまへ感謝を申し上げます。



榊形小PTAの発表

### 編集後記

この度の広報誌の発行にあたり、多くに皆さまに多大なご支援・ご協力をいただきました。情報委員一同、心より感謝を申し上げます。（情報委員会）